

日本庭園「有楽苑」の公開を3月1日（火）より再開します

名古屋鉄道では、所有する日本庭園「有楽苑（うらくえん愛知県犬山市御門先）」の公開を3月1日（火）より再開します。有楽苑全体の劣化に伴い、庭園内の国宝茶室「如庵（じょあん）」および重要文化財「旧正伝院書院（きゅうしょうでんいんしよいん）」の本格的な調査と屋根の葺替が必要な状況であったため、2019年3月から同苑の公開を一時休止し、調査・改修工事を実施していました。このたび同工事が完了したため、公開を再開する運びとなりました。再開に合わせ、有楽緞子柄（うらくどんす）の型押しを施した懐紙、来苑記念の御庭印などを新たに販売します。

詳細は下記のとおりです。

記

- 施設概要 日本庭園「有楽苑」
〒484-0081 愛知県犬山市犬山御門先1番地
URL <https://www.meitetsu.co.jp/urakuen/>
※施設内各文化財の概要は別紙参照



- 再開日 3月1日（火）

- 営業内容

開苑時間	: 9:30~17:00（入苑は16:30まで）
呈茶営業時間	: 10:00~16:30まで（販売は16:00まで）
休苑日	: 毎週水曜日（祝日の場合は翌日に振替）※3月2日（水）は開苑します。 年末年始（12/29~1/1）、苑内メンテナンス日

- 料金

入苑料	: 大人 1,200 円、小人（12 歳未満）600 円 ※小学生は小人、未就学児は無料 ※如庵特別公開、襖絵特別公開、初釜開催時などは特別料金あり
呈茶料	: 一服 600 円
国宝セット券	: 1,450 円 ※国宝犬山城とのセット券

- 販売商品 懐紙 500 円、一筆箋 500 円、
御庭印 300 円など



懐紙



御庭印

- お問い合わせ先 名古屋鉄道（株）グループ事業部文化事業担当

TEL 052-588-0837 FAX 052-588-0845

E-mail: urakuen-jimukyoku@nrr.meitetsu.co.jp

※営業に関するお問い合わせ先は TEL : 0568-61-4608（日本庭園「有楽苑」）

有楽苑について

国宝犬山城の東にある有楽苑には、国宝茶室「如庵」、重要文化財「旧正伝院書院」、古図により復元された「元庵」、新しく建てられた「弘庵」などがあります。「如庵」は、茶の湯の創世期に尾張の国が生んだ大茶匠・織田有楽斎が建てた茶室で、1936 年(昭和 11 年)に国宝の指定を受けた茶道文化史上貴重な遺構です。京都山崎妙喜庵内の「待庵」、大徳寺龍光院内の「密庵」とともに、現存する国宝茶席三名席の 1 つです。

織田有楽斎は織田信長の実弟として 1547 年(天文 16 年)に生まれた茶人です。波瀾に富んだ人生を送った彼の生涯を写すがごとく、茶室「如庵」は各地を点々としましたが、1972 年(昭和 47 年)に犬山城下の佳境の地に移築され、「有楽苑」と名付けられました。

移築後 50 年、織田有楽斎・没後 400 年となる今年、改修工事を終え、開苑します。

国宝茶室「如庵」及び各文化財の概要

(1) 国宝茶室「如庵」

織田信長の実弟で茶人の織田有楽斎により、1618 年(元和 4 年)に京都の建仁寺境内の正伝院に建立。その後、三井家の所有となり、東京都麻布、神奈川県大磯を経て、織田家所縁の犬山に移築されました。1951 年(昭和 26 年)、国宝に指定。なお、国宝には如庵だけでなく、その露地も指定されています。



(2) 重要文化財「旧正伝院書院」

如庵と同時期に建立された有楽斎の隠居所。如庵とともに京都から麻布、大磯を経て、犬山に移築。長谷川等伯、狩野山雪などによる襖絵も保存されています。1944 年(昭和 19 年)、国の重要文化財に指定。



(3) 岩栖門

文明年間に京都に建立された岩栖院の唐門と伝えられています。明治末年に三井家の手に渡り、麻布へ移築。その後、如庵とともに大磯、犬山と移されました。数少ない武家屋敷の門として、貴重な建造物。



(4) 徳源寺唐門

織田家の菩提寺、徳源禅寺に建立された唐門。昭和初期に三井家の所有となり、麻布に移築。その後、如庵とともに大磯、犬山と移されました。



(5) 萱門^{かやもん}

三井家の大磯別邸にあった千家写しの門で、如庵とともに移築。



(6) 元庵

古図に基づいて復元された有楽斎が大阪・天満に構えていた茶室。如庵とあわせて、数少ない有楽斎の作風を楽しむ、貴重な建造物。



(7) 弘庵

有楽苑内で催される茶会のために新築された茶室。設計は、京都工芸繊維大学名誉教授だった故・中村昌生氏^{なかむらまさお}が手掛けました。当室内で呈茶サービスをご利用いただけます。

